



概要

このリリースノートでは、ControlSpace Designerソフトウェアリリース(バージョン5.10.3)に関する変更点や情報について説明します。CSD5.10.3は、CSD5.10.2に修正を追加した更新バージョンです。

ControlSpace Designerソフトウェアに関する追加情報については、以下を参照してください:

https://pro.bose.com/ja_jp/products/software/signal_processing/controlspace_designer.html#v=controlspace_designer_variant

CSD5.10.3 修正点 (2022.08 リリース)

CSD5.10.3では、以下の問題が修正されています。

1. CSD5.9以降において、Danteカード搭載のPowerMatchアンプが正しく起動しないことがある問題を修正しました。

CSD5.10.2 修正点 (2022.06 リリース)

CSD5.10.2では、以下の問題が修正されています。

一般的な問題

1. CSD5.10.1において、グループ化されたモジュールをRename Selectionしようとするクラッシュする問題を解決しました。
2. Dante ControllerからDante Updaterを使用してDanteアップデートを行う際のヘルプファイルを更新しました。「Allow rollback to previous versions(以前のバージョンへのロールバックを許可する)」チェックボックスが選択されていて、「Allow override of device matching(デバイスマッチングのオーバーライドを許可する)」チェックボックスが選択されていない時に、確認を推奨するようになりました。
3. デフォルトのconference room.cspサンプルファイルの設定を変更しました。アナログブリゲインを0dB・ファンタム電源をオフに設定することで、設定を調整する際に接続したスピーカーから「ポップノイズ」が聞こえないようにしました。

CSD5.10.1 修正点 (2022.04 リリース)

CSD5.10.1では、以下の問題が修正されています。

一般的な問題

1. EU地域において、CSD5.10をWindowsで使用した場合に発生する問題をCSD5.10.1で修正しました。CSD5.10では、Windowsの地域設定でカンマが小数点として使われている場合にデバイスに接続することができませんでした。この問題を解決するために、CSD5.10.1がリリースされました。

CSD5.10 変更点 (2022.03 リリース)

CSD5.10には、以下の変更が含まれています。

1. Realtime EQの機能に変更され、LegacyとRealtimeのどちらのバージョンを使用するか選択できるようになりました。古いプロジェクトをCSD 5.10で開いた場合は、ユーザーがRealtime EQを任意で選択しない限りは自動的にLegacyが適応されます。新しいプロジェクトはデフォルトでRealtime EQが適応されます。
2. システムのDanteファームウェアがControlSpace Designerのバージョンと互換性がない場合、システムをオンラインにすることができなくなりました。



3. MSA12Xの新しいファームウェアバージョンが追加されました。これにより、一部のユニットにおいて低温環境下で起動しない問題が解消されます。
4. AECアップデートで使用されるTFTPサーバーは、AECアップデートが行われている時のみ有効になりました。
5. FS360P II HPF EQのHPFを60 Hzに更新し、オプションのLo-Z(ローインピーダンス)使用時のリミッター設定を修正しました。
6. ControlSpace Designer ソフトウェアのリリースでは、新しいアプリケーションインストーラを使用しています。これにより、さらに簡単にすばやくインストールができるようになりました。

新たな機能 / 改善

今回のリリースでは、以下の新たな機能/改善が含まれています。

1. ESP/EX内のSerial Outブロックは、ハードウェアのRS232インターフェースと同様に、TCP/UDPを介したシリアルコマンドの送信をサポートするようになりました。
2. レガシーのDanteエンドポイント(EP22-D, EP40-D, WP22B-D, WP22BU-D)が、ControlSpace EX ProcessorsのSP Tool Kit内のDante Endpointsセクションに表示されるようになりました。ESP/EXプロセッサにEndpointのIOを追加すると、Danteルーティングが自動的に設定されるようになりました。
3. システムデザインに含まれるDante Endpointの接続状況が、Device Statusウィンドウに表示されるようになりました。
4. PowerSpaceとPowerSpace+が、Projectビュー内のデバイスリストで表示されるようになりました。ただしこれは表示のみで、PowerSpace+にはControlSpaceシステム制御はありません。
5. トラブルが起きた際に、カスタマーサポートとエンジニアチームが情報を共有しやすくするため、拡張された新たなログモードが追加されました。

修正

このリリースには、以下の修正が含まれています。

セキュリティ

1. CSD5.10に含まれるESP/EXのファームウェアには、重要なセキュリティアップデートが含まれています。本リリースに含まれるファームウェアにアップデートすることを強く推奨します。

一般的な機能

1. AECアップデートダイアログで、ステータスメッセージに誤ったデバイス名が表示される問題を修正しました。
2. デバイスリスト内のIZAデバイスの製品名を修正しました。
3. ESP/EXプロセッサを複製した場合に、AmpLinkブロックが消える問題を修正しました。
4. PowerMatchアンプのみを含むプロジェクトファイルにプロセッサを追加すると、デフォルトのReal Time Clock (RTC) として設定されるようになりました。
5. CSD内蔵のヘルプファイルの検索機能に関する問題を修正しました。
6. AmpLink ブロックを含むプロジェクトファイルを開くときに起きる問題を修正しました。
7. ESP/EXプロセッサの起動時にクリックノイズが発生する問題を修正しました。



信号処理

1. パラメトリックEQ内のBypass Allは、個々のバイパス状態に関係なくすべてのEQバンドをバイパスするようになりました。
2. ESPプロセッサから AmpLinkブロックを削除するとSP Toolkit 内から消えてしまう問題を修正し、プロセッサ/デザインに再追加できるようになりました。
3. MSA12Xで、ユーザーが設定したゲインが再起動時に正しく保持されなかった問題を修正しました。
4. MSA12Xで、再起動時にゲインが0dBにリセットされてしまう問題を修正しました。
5. FS360P II SEQで、ハイパスとプロテクションリミッターで間違った値が適用されていた問題を修正しました。
6. Parameter Set内のグループゲインオフセットの保存に関する問題を修正しました。
7. ESP-00IIで、CSD から呼び出したParameter Setが正しく適用されなかった問題を修正しました。

コントロール

1. プロセッサが、大量のSoIPメッセージのリクエストを連続して受信したときに、応答しなくなる問題を修正しました。
2. Parameter Set Recallブロック経由でパラメータセットを呼び出したとき、正しく呼び出せない問題を修正しました。
3. メーターブロックのロジック出カインジケーターが正しく動作しない問題を修正しました。
4. ダッカーブロックのロジック出カインジケーターが正しく動作しない問題を修正しました。
5. CC-1D/2D/3Dコントローラーが、PowerMatch/PowerShare-Dの出力ミュート状態を読み込まない問題を修正しました。
6. CC-2D/3Dコントローラーにおいて、Parameter Setから呼び出したときに選択したソースが正しく表示されない問題を修正しました。

Dante

1. ネットワーク上に存在しないDanteデバイスが、接続されているように表示されてしまう問題を修正しました。

ControlSpace Remote

このリリースは、ControlSpace Remoteバージョン2.10に対応しています。

サードパーティ製品のコントロール

このリリースは、Sennheiser TCC2 ファームウェアバージョン1.8.0に対応しています。



ファームウェアのバージョン

本リリースに含まれる機能を有効にするためには、各デバイスごと以下のファームウェアバージョンが必要です。以下の表のグリーン部分は、本リリースで更新されたファームウェアのバージョンを示します。

Device/s	Device FW	Dante FW	Notes
ESP-00 II	5.110	3.0.1	
ESP-880/880A/880AD/1240/1240A/1240AD/1600/4120	3.620	3.0.1	
EX-12AEC/440C/1280/1280C	2.520	3.0.2	
PM4250N/4500N/8250N/8500N	3.820	3.0.1	
PS 404D/604D	1.600	3.0.0	
EX-4ML/8ML	2.000	3.0.0	
EX-UH	2.000	3.0.0	
WP22B/BU-D	--	5.0.0	
EP22B/40-D	--	5.0.0	
CC-64	1.120	--	
CC-1D/2D/3D	0.914	--	
MSA12X	1.052	3.0.0	



既知の問題、不具合や制限など

以下は、このリリース時点において認識されている問題と制限に関する情報です。ソフトウェアまたはハードウェアの操作に関する問題のトラブルシューティングとしてご活用いただけます。

信号処理

1. USB InputモジュールがOutputモジュールに配線されていない場合、そのモジュールはMeteringデータを表示しません。

CSDロジックブロック

1. ESP-00のLogic ActionをEX-1280のトリガーに割り付けるとエラーになります。
2. Logic Wiringビュー内のLogic Connectorsの状態が正しく表示されないことがあります。ただし、これは機能には影響しません。
3. オンラインにしたときに問題が発生したりCSDがクラッシュする場合には、Logicブロックをコピー/ペーストするのではなく、ラッグしてお試しください。
4. 多数のLogicルートを使用していて、オンラインにしたときにCSDがクラッシュする場合は、Projectビューからオンラインにしてお試しください。

Dante エンドポイント

1. EX-8MLは最初使用時にDHCPではなくリンクローカルアドレスで起動する可能性があり、デバイスを再起動するとアドレスはDHCPに戻ります。

電話機能

1. PSTN とVoIPの呼び出し音と音声レベルが現状では正しく設定されません。可聴上の音量では0dBと+10dBでの違いはありません。

ControlSpace Remote (CSR)

1. Avayaシステムでファーエンド側が「Hold(保留)」状態のときは、CSRでVoIP通話を終了することはできません。

その他の問題

1. レガシーデバイスと使用しているEX-1280Cで、GPI のデジタルモードにセレクター、ゲイン、アナログ入力/出力をプログラムしているとき、それらが機能しない場合があります。
2. PowerMatchは、デジタルオーディオロスについてはユーザーに警告を出しません。(Dante, AmpLink, ESPLink, Co-braNet, その他デジタル音声ソース等)



システムの必須要件

ControlSpace Designerソフトウェアを動作させるための必須システム要件は以下です。

- Microsoft Windows 10 version 2004またはそれ以降
- 1GHzプロセッサ(またはそれ以上)
- 512MBの利用可能なRAM(1GBを推奨)
- 512MBの利用可能なディスクスペース
- 1366×768 WXGAの最小解像度
- 利用可能なUSBポート×1
- 利用可能なイーサネットポート×1(最小100MB、推奨1GB)
- ControlSpace Designerを使用するには、Microsoft®Visual C++ 2019ランタイムライブラリも必要です。必要な場合はControlSpace Designerのインストールの一部として自動的にインストールされます。

注意：

1. Microsoft Windows XP、8、および8.1の公式サポートは終了しました。
2. Microsoft Windows 11 は公式にはサポートされていません。